

special thanks

(有) 橋本夕紀夫デザインスタジオ
(株) エーアンドエム
日本回線システム(株)

イベント全体をうごめきながら繋げる、 IDM のコンセプトを体現するもの

会場全体を包み込む、印象的なインスタレーションは、イベント会場デザインを得意とする SOL style が当初案を作成し、その後、インテリアデザイナー橋本夕紀夫氏によってブラッシュアップされたもの。ホテル等パブリックアートを得意とする エーアンドエムの協力を得て、象徴となる作品に作り上げる。



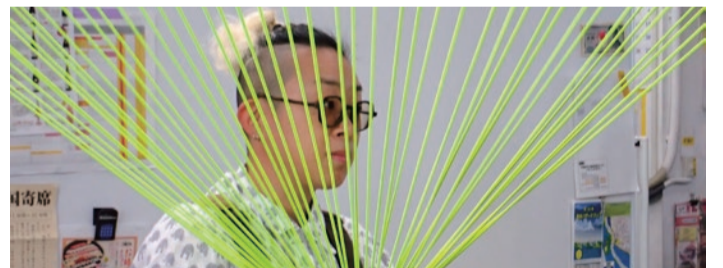
会場デザイン SOL style

IDMの元集まった沢山のデザイン団体、デザイナー。そして様々な多様なデザイン、時代の異なるデザイン、時代を超えたデザインなど、多くの点が1つに繋がっていく。この先の日本のデザイン、未来のデザインへ。そのようなイメージからリボンで繋がっていく会場デザインを考えました。リボンは空調や人の動きで緩やかに揺れ動き、会場全体に軽やかさとリズムを与え、全体の統一感「繋がる」イメージも生み出しますから。そこから更に橋本夕紀夫さんの「うごめく」というキーワードが加わり、出来上がりに今からワクワクしています。



インスタレーションデザイン 橋本 夕紀夫

「繋がる」という言葉の持っている意味とか、感じ方でいくと、とても有機的だな、と思うんですね。無限に広がるイメージというか、点と点が繋がって、生き物的に線になっていくような。それで、絶えず動いている、うごめいている、という表現を取り入れようと思ったんです。「うごめく」という言葉の連想させる強いインパクトと、うごめくことによって与えるイメージもまたあると思うんです。うごめくなかで繋がる。そこから新しいアイデアが生まれる。そんなイメージかな。蛍光イエローのゴムは、その「うごめいて繋がる」イメージの中で、細くても目立つ、主張する色、という選択。僕の想像するなかで一番強い色。今まで作品の中で使った事の無い色です。



インスタレーション制作 A&M + team ASANTE

今回お話をいただいた時、「はて、どんなことになるかしら。」と未知の可能性に、正直、不安と期待が混在していました。デザイナーが橋本夕紀夫さんに決まり、初打合せの時、「ここにかかわらない人達が引き寄せられるような親しみのある、笑みが出るものがいいよね。」という言葉がとても印象的でした。「親しみやすさ」はアートが大きな存在意義を保つために最も大切な要素の一つであり、私たちが目指していること。そして、「うごめかしたい。」と聞いた時、何か面白いことが生まれる瞬間にワクワクしました。苦手なメカの部分は日本回線システムさんが積極的に協力してくれました。皆で作り上げる、あの黄色い「うごめくもの」が、皆様の心の片隅に残り、それがIDMのこれからの可能性を高める一つとなりましたら、とても嬉しく思います。